

SENZOKU ストリングオーケストラ

2022年11月25日（金）18：00開演（17：30開場）

洗足学園 前田ホール

指揮：澤 和樹

J.ラター／弦楽のための組曲

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| I. A Roving | II. I Have A Bonnet Trimmed With Blue |
| III. O Waly Waly | IV. Dashing Away |

E.エルガー／序奏とアレグロ 作品47

- | | |
|------------|-------------|
| Vn.1 早川 萌音 | Vn.2 頼近 友莉奈 |
| Va 米倉 海陽 | Vc 大友 美侑 |

— 休憩 —

J.スーク／弦楽セレナーデ 変ホ長調 作品6

- | | |
|---------------------|---|
| I. Andante con moto | II. Allegro ma non troppo |
| III. Adagio | IV. Allegro giocoso, ma non troppo presto |

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

【ごあいさつ】

本日は SENZOKU ストリングオーケストラの演奏会にご来場いただきありがとうございます。今回の演奏会は、今年3月まで東京藝術大学学長でいらした澤和樹先生を指揮者としてお招きしました。澤先生はロンドンでも研鑽を積まれ、毎年のようにイギリスでの演奏活動をされていらしたご経験から、イギリスの作曲家ラターとエルガーの作品を選んでくださいました。後半はチェコの作曲家、スークの弦楽セレナーデを演奏します。スークは20世紀の名ヴァイオリニスト ヨセフ・スークの祖父にあたり同姓同名、ドヴォルザークの娘婿。まさに弦楽器の魅力がたっぷり味わえるプログラムとなりました。

ヴァイオリニスト、ヴィオラ奏者、指揮者、学長先生と多彩な顔を持つ澤和樹先生のご指導、先生の細やかなテクニックの伝授やヨーロッパでのエピソードに目を輝かせながら、1年生から4年生まで弦楽器コースの学生達が心を一つに演奏会に向け準備をしてきました。学生たちの熱い全力での演奏をお楽しみいただければ幸いです。暖かいご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

企画 運営責任者
弦楽器コース教授 沼田園子

■プロフィール



澤 和樹

1979年、東京藝術大学大学院修了。「安宅賞」受賞。

ロン＝ティボー、ヴィエニャフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞し、イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダルを受賞した。

'80年より文化庁在外研修員としてロンドンに派遣され、ジェルジ・パウク、ベラ・カトーナの両氏に師事。

'84年に東京藝大に迎えられるとともに本格的な演奏活動を開始し、'89年には、文部省在外研究員としてロンドンの王立音楽院に派遣され、さらに研鑽を重ねた。この時期、アマデウス弦楽四重奏団メンバーとの出会いにより

澤クワルテットの結成を決意する。'96年より指揮活動を開始。

2003年、'04年には響ホール室内合奏団、'05年には東京弦楽合奏団を率いて英国各地で演奏し絶賛される。日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、九州交響楽団などにも客演し好評を博す。

2004年、和歌山県文化賞受賞。東京藝術大学音楽学部教授、音楽学部長を経て2016年より2022年まで東京藝術大学学長。英国王立音楽院名誉教授。

■ 曲目解説

J.ラター／弦楽のための組曲

ジョン・ラターは1945年生まれのイギリスの作曲家、編曲家、指揮者である。主に合唱音楽で活躍をしており、教会音楽にも携わっている。主な作品として「Gloria」「Requiem」があり、典礼文に作曲したミサ曲も作曲している。元々あった既成の「クリスマス・キャロル」を編曲した後、自身で作詞・作曲を務め、新作のキャロルを生み出した。キャロルというのは讃美歌の一種で元々は踊りのための民謡であったが、現在では祝歌や頌歌という扱いになっている。

今回演奏する「弦楽のための組曲」は1971年に作曲された。この曲は4つの楽章からなっており、英国の古民謡に基づいて、それぞれの楽章に使われている。第1楽章「さすらい (A-Roving)」は、海の男たちの歌として伝わる歌の一つである。重労働を楽しく作業するための歌であり、テンポよくリズムも乗りやすのが特徴である。第2楽章「私の青い縁取りのボンネット (I have a bonnet trimmed with blue)」のボンネットというのは帽子を表しており、ゆったりと漂う表現の中に上品な旋律が流れている。第3楽章「ああ悲しい (O waly waly)」はスコットランド語で書かれており、ヴァイオリンソロによる美しい旋律が描かれている。第4楽章「アイロンをかけまくる (Dashing away)」はスピッカートが特徴なリズムを中心に転調をし爽快な最後を飾る。

(3年 Vn.三谷 月菜)

E.エルガー／序奏とアレグロ 作品47

Edward Elgar(1857~1934)が1904年~1905年にかけて作曲した、弦楽合奏、弦楽四重奏のための作品である。「行進曲」威風堂々と成功を収め、王室からナイトの称号を授与されたばかりの時期である。エニグマ交響曲にも登場する、エルガーの友人、オーガスト・イエーガーに、その当時設立されたばかりのロンドン交響楽団のために、“輝かしく速い”スケルツォ作品を書くことを勧められ作曲に至った。

1905年にロンドン交響楽団によって初演されエルガーは名声を得るが、複雑で難しく受け入れられず、初演後はあたり演奏される機会もなく、およそ30年以上も顧みられないまま放っておかれていた。

バロック時代の合奏協奏曲という構成で、4パートのトップが弦楽四重奏のスタイルで合奏団を引っ張る。ト短調からト長調に移行。

〈序章〉

エルガーが西ウェールズを旅した時に聞いたウェールズ民謡から、着想を得たメロディーからなっている。

〈アレグロ〉

ABAのソナタ形式。中間部のBは展開形を作らず、フーガになっている。

終盤に序章のメロディーが再度現れ展開し高揚感のある終結部で盛り上がりを作った後、すっきりと終わる。

(3年 Vn.鈴木 光菜)

J.スーク／弦楽セレナーデ 変ホ長調 作品6

J.スーク(1874~1935)はチェコの作曲家、ヴァイオリニストである。作風は国民楽派としての傾向は少なく、師のドヴォルザークやブラームス、フランス印象派の影響を受けているが、のちに無調や多調に向かっていき、複雑化した独自の書法となっている。チェコ近代を代表する作曲家の1人である。

今回演奏する弦楽セレナーデ変ホ長調作品6は1892年、スークが18歳の時に作曲された作品である。当時短調の曲ばかり書いていたスークが師であるドヴォルザークから気分転換に明るい曲を書いてみたらどうかという助言を受け、またのちに結婚するドヴォルザークの娘オティリエへの思いも込めて作曲したといわれている。

第1楽章 Andante con moto

冒頭に第1ヴァイオリンが全曲の中心となる主題を奏でる。中間部を挟み再び主題が現れ楽章が結ばれる。

第2楽章 Allegro ma non troppo

優美なワルツと、抒情的な中間部を持った3部形式のワルツ楽章である。

第3楽章 Adagio

独奏チェロによって示される主題がヴァイオリンへと受け継がれる。全体を通してロマンチックな3部形式の緩徐楽章である。

第4楽章 Allegro giocoso, ma non troppo presto

主題を中心に自由な形式で書かれた、躍動感に満ち溢れた楽章である。第1楽章の主題を回想したのち賑やかに全曲を締めくくる。

(3年 Vn.勝部 小夏)

■メンバー

コンサート ミストレス

勝部 小夏 早川 萌音 頼近 友莉奈

ヴァイオリン

秋友 龍馬	宇根 由利子	長沢 明日香	久本 奈海	椛田 翔允
佐々木 郁子	島村 佳奈	鶴田 翔	松村 歩美	三谷 月菜
宮崎 莉子	兼子 萌花	隈元 めいみ	小玉 みどり	小林 彩
鈴木 利々果	武田 妃那	寺岡 彩菜	マノユ 瑠南	LEE SEONJAE
峯岸 陸				

ヴィオラ

井上 海燦	宇津木 遥花	米倉 海陽	小林 真子	齋藤 亜花羽
鈴木 光菜	宮島 麻歩	稲本 雄介		

チェロ

沓掛 雛乃	佐々木 七穂	雪江 颯太	前田 愼之助	有梨 瑳理*
大友 美侑*	羽川 真介#			

コントラバス

榎 さわ	小泉 聡一朗	福田 凧佐	加藤 翔子	栗山 愛奈
------	--------	-------	-------	-------

*…演奏補助要員 #…教員

校閲

早川 萌音

企画・運営責任者 沼田 園子 (ヴァイオリン)

指導教員

ヴァイオリン	川田 知子	中 一乃	三又 治彦	渡邊 ゆづき
ヴィオラ	安藤 裕子	井野邊 大輔	佐々木 亮	須田 祥子
チェロ	荒 庸子	銅銀 久弥	羽川 真介	藤村 俊介
	山本 祐ノ介			
コントラバス	石川 滋	黒木 岩寿	今野 京	矢内 陽子